

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

ソフトボール

2024年／令和6年

第476号

9月号

（毎月1回10日発行）

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L . 03-5843-0480 F A X . 03-5843-0485

編集部 (株)日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L . 03-3811-6911 F A X . 03-3811-6290

© WBSC



「第15回女子U18ワールドカップ グループステージ」で「圧倒的強さ」を見せた女子U18日本代表

C o n t e n t s

・女子U18日本代表レポート	2	・第38回全日本小学生男子大会	20
・男子TOP日本代表レポート	4	・第24回全日本中学生男子大会	22
・日韓ジュニアスポーツ交流事業	6	・第24回全日本中学生女子大会	24
・第45回全日本クラブ男子選手権大会	8	・第70回全日本教員大会	26
・第45回全日本クラブ女子選手権大会	10	・全日本大会を支えてくださった皆さん	28
・第64回全日本実業団男子選手権大会	12	・令和6年度第4回理事会議事録	31
・第64回全日本実業団女子選手権大会	14	・令和6年度第5回理事会議事録	33
・第59回全日本高校男子選手権大会	16		
・第76回全日本高校女子選手権大会	18	・事務局だより	38

公益財団法人 日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ

www.softball.or.jp

第15回女子U18ワールドカップ グループステージ

2024年8月14日（水）～18日（日） 中国・平潭



女子U18日本代表 グループB 全勝で1位通過



ファイナルステージ出場権獲得

去る8月14日（水）～18日（日）、中国・平潭で「第15回女子U18ワールドカップグループステージ」グループBが開催され、女子U18日本代表が出場。上位2チームに与えられる「ファイナルステージ」への出場権獲得をめざし、熱戦を繰り広げた。

グループBには、ホスト国の中国、イタリア、日本、オランダ、ペルー、プエルトリコの6チームが振り分けられ、シングルラウンドロビン方式（1回総当たり）の予選リーグにあたる「オーブニングラウンド」を戦い、その順位に基づき、「最終順位決定プレーオフ」でファイナルステージに進む2チームを決定する試合方式が採用されていたが、悪天候で大会初日に予定された全試合が中止となり、その後も天候が回復せず、大会途中から5インニングでの試合（同点の場合は6回からタイブレーク）という変則的な試合方式に変更を余儀なくされた。

女子U18日本代表は、「7イニング制」で行われたプエルトリコ戦（8―1で6回コールド）、イタリア戦（10―0で4回コールド）に連勝。「5イニング制」となったオランダ戦も10―0、ペルー戦も6―0で勝利を収め、最終戦の中国戦も21―2で大勝し、5戦全勝。グループB 1位で「ファイナルステージ」出場権を獲得した。

大会直前合宿(8月7日(水)~10(土)/高知県高知市・高知県立春野総合運動公園)



選考会後、初招集となった合宿「チーム」となるために1分1秒を惜しむように練習に励んだ

第15回女子U18 ワールドカップ グループステージ グループB

悪天候で試合スケジュールは変更、また変更の繰り返し



グループB 日本戦試合結果



試合レポートはこちら



試合レポートはこちら

第2戦 ITALY 0 - 10 JAPAN

© WBSC



試合レポートはこちら

第1戦 PUERTO RICO 1 - 8 JAPAN

© WBSC



試合レポートはこちら

第4戦 PERU 0 - 6 JAPAN



第3戦 JAPAN 10 - 0 NETHERLANDS



試合レポートはこちら

※大会出場メンバー、試合スケジュール詳細情報はこちら

第5戦 JAPAN 21 - 2 CHINA

男子TOP日本代表レポート

ワールドカップ グループステージ 「グループC組み合わせ」決定！

昨年（2023年）日本・高知県で開催された「アジアカップ」で貫緑の全勝優勝＆大会8連覇。「アジア1位」でワールドカップグループステージへの出場を決めた日本（※2023アジアカップには「次世代の強化」を目



新生・男子TOP日本代表、いざ！世界の舞台へ!!
（上位2チームがファイナルステージへ進出）

来る9月17日（火）～21日（土）、アメリカ・オクラホマシティにおいて開催される「第18回男子ワールドカップグループステージ」（グループC）に男子TOP日本代表チームが出場。来年（2025年）カナダ・プリンスアルバートで開催される「ファイナルステージ」への「出場権」をかけ、世界の強豪と激戦を繰り広げる。

的とし、同年のU23ワールドカップで準優勝の好成績を取った男子U23日本代表チームが出場。TOPカテゴリに挑んだ）は、今年（2024年）6月、高知県高知市で「令和6年度男子TOP日本代表チーム選手選考会」を実施し、新たに「代表選手16名」を選出・決定。「新生・男子TOP日本代表チーム」として今大会に挑むこととなる。

「第18回男子ワールドカップグループステージ」はすでにグループA、グループBの戦いを終了しており、残すはこのグループCのみ。

メキシコ・エルモシージョで開催されたグループAは「第1代表・ドミニカ」「第2代表・オーストラリア」、カナダ・プリンスアルバートで開催されたグループBは「第1代表・アルゼンチン」「第2代表・ニュージーランド」という結果になっており、加えてファイナルステージ開催国「カナダ」が「ワイルドカード」での出場権をすでに獲得している状況となっている。

WBSC（世界野球ソフトボール連盟）の大会ライブ配信・ハイライト映像をご覧いただくとよく分かるが……「男子ソフトボールトップレベル」の舞台はまさに「強者揃い」。投手は「球速135km/h超」のライズ・ドロップを投げ込んでくるし、打者もそれ

いとも簡単に打ち返す「驚異的なパワー」の前回（2022年）のワールドカップで「屈辱の7位」に終わってしまった男子TOP日本代表にとって、今大会は言うまでもなく「リベンジ」を期す舞台となる。日本男子ソフトボールを再び「復活・躍進」させるためにも、**まずはこのグループステージを「突破」しなければならない！**



世界は広く、男子ソフトボールのレベルは日々進化している

「1・破壊力」を持ち合わせている。TOP・U23と2つのカテゴリで「世界一」に登り詰めたあの「世界ナインバーンサウススポー」ジャック・ベスグローブ（オーストラリア代表）でさえ、少し気を緩めれば痛打されてしまふ……そんな「異次元の領域」の戦いが繰り広げられているのである。



WBSC

MEN'S

SOFTBALL

WORLD CUP®

GROUP C

OKLAHOMA CITY 2024

GROUP C	
	COLOMBIA
	GUATEMALA
	JAPAN
	NETHERLANDS
	SOUTH AFRICA
	USA

FOR THE TITLE OF WORLD CHAMPION

OPENING ROUND

SEP 17 - DAY 1 **OGE ENERGY FIELD**

1 13:00	GUATEMALA	VS	SOUTH AFRICA	2 16:00	NETHERLANDS	VS	JAPAN
3 19:00	COLOMBIA	VS	USA				

SEP 18 - DAY 2 **OGE ENERGY FIELD**

4 10:00	JAPAN	VS	SOUTH AFRICA	5 13:00	SOUTH AFRICA	VS	COLOMBIA
6 16:00	USA	VS	GUATEMALA	7 19:00	USA	VS	NETHERLANDS

SEP 19 - DAY 3 **OGE ENERGY FIELD**

8 10:00	COLOMBIA	VS	GUATEMALA	9 13:00	NETHERLANDS	VS	COLOMBIA
10 16:00	SOUTH AFRICA	VS	NETHERLANDS	11 19:00	JAPAN	VS	USA

SEP 20 - DAY 4 **OGE ENERGY FIELD**

12 10:00	NETHERLANDS	VS	GUATEMALA	13 13:00	GUATEMALA	VS	JAPAN
14 16:00	COLOMBIA	VS	JAPAN	15 19:00	SOUTH AFRICA	VS	USA

PLAY-OFFS

SEP 21 - DAY 5 **OGE ENERGY FIELD**

16 TBD	C6	VS	C5	17 TBD	C4	VS	C3
18 TBD	C2	VS	C1	FINAL			
19 TBD	Gm 17 Winner	VS	Gm 18 Loser	REPECHAGE			



グループC最有力候補は「前回大会3位」のホスト国・アメリカ

2022年の「リベンジ」を果たすべく、必ずやグループステージ突破を!!

日韓ジュニアスポーツ交流事業 ソフトボール競技（チーム招待）

令和6年8月2日（金）～7日（水） 群馬県高崎市・宇津木スタジアム



去る8月2日（金）～7日（水）、「日韓ジュニアスポーツ交流事業 ソフトボール競技」（チーム招待）が実施された。この「日韓交流事業」は2001年にスタートし、今年で21回目の開催。2019年の開催の後、コロナ禍もあり、2020年～2022年の3年間「中止」を余儀なくされ、開催を見合わせてきたが、昨年（2023年）ようやく「再開」され、今年も開催することができた。

この「交流事業」は、アジア近隣諸国とのスポーツ交流を促進し、両国の友好親善と競技力向上を目的に「相互派遣方式」で実施されている。

従前は、9月初旬にまず日本チームが韓国を訪問。これを受け、11月に韓国チームが来日するのが「通例」であり、お決まりの「パターン」であったが、昨年からは韓国チーム（女子U18代表チーム）が先に来日し、「日本代表チーム」が11月に韓国を訪問するパターンに切り換えられた。

「日本代表」として、今回「ホストチーム」として韓国チームと対戦し、11月に韓国を訪問するのは、今春、静岡県富士宮市で開催された「第42回全国高等学校女子選抜大会」で岐阜県勢としては「初」となる「全国制覇」「優勝」を成し遂げ、この「交流事業」の直前に開催されたインターハイでも優勝こそ逃したものの、準優勝の好成績

を残した多治見西高等学校(岐阜)。
まず今回の受入事業を「ホストチーム」として実施し、11月9日(土)～14日(木)の日程で韓国を訪問(派遣事業)する予定が組まれている。

韓国女子U18代表チームは8月2日(金)に来日。今回の「交流事業」が実施される群馬県高崎市へと向かい、翌3日(土)から早速「宇津木スタジアム」で「親善交流試合」を実施。「日本代表」であり、この「交流事業」の「ホストチーム」である多治見西高等学校との対戦を中心に、地元・群馬県選抜チームとも対戦した。

8月3日(土)、初戦は群馬県選抜チームと対戦。先手を奪い、4点を挙げた試合展開となったが、後半逆転を許し、終わってみれば大差の敗戦。続く多治見西高等学校との対戦も、常に「U18」のカテゴリーでは「世界のトップ」を争う国際的にも高い競技力を誇る日本の「高校チャンピオンチーム」、この「日韓交流」の後、開催された「第15回女子U18ワールドカップグループステージ」グループB(8月14日(水)～18日(日)、中国・平潭で開催された)／詳報・本誌P2～3を参照で圧倒的な強さを見せ、5戦全勝の1位で通過。見事、「ファイナリストステージ」への出場権を獲得した「女子U18日本代表チーム」に3名もの「代表選手」を送

り込む「強豪」多治見西高等学校が相手とあつては、さすがに分が悪く、大差をつけられる結果に……。それでも日本のトップレベルのチームと「直接対決」する機会を得たことは、韓国チームにとって、試合の「勝敗」だけでは計ることのできない「貴重な経験」となったはずである。



「親善交流試合」を行い、互いのレベルアップをめざした

また、この「日韓交流」の直前に開催された「第17回女子ワールドカップファイナリストステージ」(7月15日(月)～20日(土)、イタリア・カステイونس・デイストラダで開催)で、見事「優勝」を飾り、オリンピックに続き、ワールドカップでも「世界一」に導いた女子TOP日本代表・宇津木麗葉ヘッドコーチが両チームに表敬訪問を行

う場面も見られ、選手たちへ「直接指導」に乗り出すことも……。まさに「世界のTOP」を極め、「世界一」に君臨する日本のソフトボールの「真髄」が次代を担う日韓両国の選手たちに伝授・継承される貴重な機会となった。

グラウンドを離れても「歓迎夕食会」等が催され、昨年本事業を主管し、団長として事業に参加した(公財)日本ソフトボール協会・三宅豊名誉会長(前会長)も駆けつけ、グラウンド外でも互いの交流を深め、言葉は通じなくても、身振り手振りのゼスチュアを交えて意思疎通を図り、ソフトボール談義に花を咲かせていた。

互いのレベルアップ、技術力・競技力向上をめざす取り組みは、親善交流試合の実施だけに留まらず、「合同練習」を行い、試合を行うだけでは互いに学び、感じることはできない「日々の練習」に臨む姿勢から始まり、ウォーミングアップ、ソフトボールに必要な基礎的なトレーニング、基本的な技術練習のあり方について、意見交換・情報交換を行いながら、互いの「良いところ」を学び、吸収する機会・時間も設けられた。この合同練習には(公財)日本ソフトボール協会・宇津木妙子副会長も参加。その「代名詞」である「速射砲ノック」

を体験・体感する貴重な時間となった。

8月2日(金)～7日(水)の6日間、実施された「日韓ジュニアスポーツ交流事業ソフトボール競技」(チーム招待)。両国の「将来」「未来」を担うジュニアカテゴリーの選手たちが、この「交流事業」を一つのステップとしてさらに成長し、今後、「アジアカップ」のみならず「ワールドカップ」、あるいは「アジア競技大会」「オリンピック」といった「夢の舞台」で、互いに元気に「再会」し、「成長した姿」を見せ合う……。この「交流事業」の「理念」を「現実のもの」としていかなくてはならない。



第45回全日本クラブ男子選手権大会

令和6年7月20日（土）～22日（月） 岡山県新見市／新見市憩いとふれあいの公園 他

記録提供：岡山県協会記録委員会



大阪桃次郎（大阪）

7年ぶり5回目の
優勝！

「第45回全日本クラブ男子選手権大会」は去る7月20日（土）～22日（月）の3日間、岡山県新見市／新見市憩いとふれあいの公園、新見市民運動公園、哲多総合運動公園を舞台に開催された。

大会は連日35度を超える「猛暑」の中行われ、試合中は2イニングに1回、3分間の給水タイムが設けられる等、熱中症対策には十分に気を配りながら実施された。

しかし、その一方で試合時間が長く、大会初日・2日目の最後の試合がナイターになる等、大会運営に苦慮する場面も見られ、それを象徴するかのようにな大会新記録となる3時間54分にわたる試合もある等、大会派遣理事の瀬戸山章常務理事は「この酷暑の中での長時間にわたる試合は、選手もそうだが、攻守交代なくグラウンドに立っている審判員が倒れてしまう……」と心配する姿も見られた。

大会初日（20日／土）に1回戦／16試合、2日目（21日／日）に2回戦・準々決勝／12試合が行われ、最終日（22日／月）のベスト4には「日本男子リーグ」に所属する大阪・堺グロバル、大阪桃次郎、ダイワアクトの3チームと昨年準優勝のFSC吉勝重建の4チームが勝ち上がり、「クラブ男子日本一」の座をかけて激突した。

《準決勝》大阪・堺グローバル 1-5 大阪桃次郎

桃次郎は2回裏、この回先頭の5番・植田貴也と6番・松本三汰の連打、パスボールで無死二・三塁の先制機を作ると、7番・南村海斗の左犠飛で三塁走者を迎え入れ、まず1点を先制。なお一死三塁のチャンスが続き、次打者の四球、盗塁で二・三塁と攻め立て、二死後、1番・宇根良祐の二遊間を抜く適時打で二者が還り、この回3点を先制した。さらに3点をリードしたまま迎えた4回裏には一死から7番・南村海斗の二遊間安打、犠打、敵失で1点を加え、4-0とリードを広げた。

一方、グローバルは6回表に5番・長谷川敬広、6番・椎葉貴哉の連続二塁打で1点を返したが、反撃もここまで。その裏、桃次郎が9番・吉永文太、1番・宇根良祐の連続三塁打で1点を追加し、5-1で決勝進出を決めた。



大阪桃次郎は南村海斗の犠飛等で2回裏に3点を先制した

《準決勝》F S C吉勝重建 4-2 ダイワアクト



山口優弥の本塁打等で吉勝重建が3点を先制

先攻の吉勝重建は初回、二死から3番・吉川大貴が四球で出塁すると、4番・嶋田将也の二遊間安打、死球で満塁と攻め立て、ワイルドピッチであっさり先制。続く2回表にも一死から9番・影山心が四球で出塁すると、二死後、2番・本塚宏太の右中間を破る適時三塁打で1点を追加。3回表にも5番・山口優弥の左越本塁打で3-0とリードを広げ、試合を優位に進めた。

3点を追うダイワアクトも5回裏、死球、安打、犠打失策で無死満塁の好機をつかみ、一死後、9番・豊村友之介の右犠飛で1点を返し、6回裏にも3番・永松幸太郎のソロ本塁打で1点差まで詰め寄ったが、同点、逆転とはならず、7回表に吉勝重建が5番・山口優弥の適時打でダメ押しの1点を加え、そのまま4-2で勝利し、決勝へ駒を進めた。

《決勝》大阪桃次郎 5-4 F S C吉勝重建



両エースの先発で始まった決勝戦

決勝は両チームともに無得点が続き、試合が動いたのは5回表、大阪桃次郎は一死から9番・吉永文太がバント安打で出塁。次打者のファーストゴロで走者が入れ替わり、一死一塁となった後、2番・山内貴博の二遊間を抜く安打で一塁走者が一気に三塁へ進塁。一死一・三塁の先制のチャンスを作ると、続く3番・高草昂大の左前適時打で三塁走者が還り、1点を先取した。

その裏、F S C吉勝重建もすぐに反撃。一死から7番・影山心、8番・松本一輝の連打と9番・嶋田智希の四球で満塁と攻め立てると、1番・本塚勇太がレフトオーバーの適時三塁打を放ち、二者が生還。2-1と逆転に成功した。

逆転を許した大阪桃次郎は、その直後の6回表、この回先頭の5番・植田貴也が四球、6番・松本三汰の二遊間安打で一・三塁、次打者のショートゴロで一死二・三塁とし、二死後、代打・須藤雄杜がライトの頭上を越えるスリーランホームランを放ち、4-2と再びリードを奪った。

2点を追うF S C吉勝重建もその裏、この回から代わった大阪桃次郎の2番手・タン・マッシュを攻め、4番・嶋田将也、5番・山口優弥の連打で無死一・三塁とし、6番・轉法輪侑孝はショートゴロで二塁フォースアウト。この間に三塁走者が還り、1点を返し、これにショートの一塁悪送球も絡み、打者走者が二塁へ進塁。さらにワイルドピッチで三塁へ進み、一死三塁の「一打同点」の場面を作ると、7番・影山心の一・二塁間を破る適時打で三塁走者がホームイン！4-4の同点に迫りつくりを見せた。

しかし、最終回、大阪桃次郎は一死から3番・高草昂大が初球を完璧に捉え、レフトスタンドに運ぶ勝ち越しソロホームラン！5-4とリードし、その裏、F S C吉勝重建の最後の攻撃をこの回再登板した「エース」岡崎建斗が無得点に抑え、7年ぶり5回目の優勝を飾った!!



7年ぶりの頂点に大阪桃次郎・中村健一監督が感極まる場面も

大会結果の詳細、全試合のインニングスコア等は日本ソフトボール協会オフィシャルHPで

第45回全日本クラブ女子選手権大会

令和6年7月20日（土）～22日（月）

岩手県一関市／一関運動公園野球場・ソフトボール場、東山多目的グラウンド

記録提供：岩手県協会記録委員会



MORI ALL WAVE KANOYA（鹿児島）



優秀選手・古本紘里
（厚木SC）



大会MVP・竹原由菜
（MORI ALL WAVE KANOYA）

【大会概要】

標記大会は、7月20日（土）～22

日（月）の3日間、岩手県一関市・一関運動公園野球場を主会場に開催され、全国各ブロックの予選を勝ち抜いた代表24チームが集い、「クラブ女子日本一」の座をかけ、熱戦を繰り広げた。

大会初日は、4会場を使用して16試合を実施。ベスト8が出揃い、地元・岩手県代表の一関クラブが勝ち上がり、会場を大いに沸かせた。

大会2日目は準々決勝4試合・準決勝2試合の計6試合が2会場で行われ、地元期待の一関クラブに大声援が送られたが、惜しくも準々決勝敗退。ベスト4には、その一関クラブを破った出口グループペパーミントエンジェルス（長崎）、大会3連覇の偉業達成を狙うMORI ALL WAVE KANOYA（鹿児島）、日本リーグ「プラチナセクション」で首位を走る厚木SC（神奈川）、前年度準優勝のCitirine Ichinomiyama（愛知）の日本リーグ所属3チームが勝ち上がった。

決勝は日本リーグ「プラチナセクション」「サファイアセクション」で首位を走るチーム同士の対戦となり、初回に鮮やかな先制攻撃を見せたMORI ALL WAVE KANOYAが厚木SCに7-0で圧勝。3連覇を達成した！

〈準決勝〉

MORI ALL WAVE KANOYA 3-0 出口グループ ペパーミントエンジェルス

MORI ALL WAVE KANOYA は2回表、5番・福元彩未、6番・濱本叶美、7番・鈴木真由子の3連打で無死満塁と攻め立て、8番・谷川まきのショートファウルフライが犠牲フライとなり、1点を先制。1点リードのまま、迎えた最終回には、ここまで好投を続けてきた出口グループ ペパーミントエンジェルズの「エース」川原ほのかが自らのエラーで1点を失い、8番・谷川まきの犠牲フライで決定的な3点目。このリードを先発・高橋音森、竹原由菜とつなぐ投手リレーで守り抜き、3-0の完封。大会「3連覇」へ王手をかけた。



MORI、3連覇に「王手」

〈準決勝〉

Citrine Ichinomiya 0-5 厚木SC



厚木SCが決勝へ

後攻の厚木SCは初回、2本の安打と盗塁で二死ながら二・三塁の先制のチャンスをつかむと、5番・江口奈那がレフト線を抜く適時三塁打。塁上の走者を一掃し、続く6番・鈴木満梨佳にもレフト前にタイムリーが飛び出し、強烈な先制パンチを浴びせ、初回到3点を先制した。これで勢いづいた厚木SCは3回裏にも、3番・八黄地麻衣、4番・小山優理の長短打とワイルドピッチで2点を追加。5-0と大きくリードを奪った。

守っては、「エース」古屋英恵が6回を投げ、被安打2・無失点の好投。最後は左腕・高木優月が締め、5-0の完封で決勝進出を決めた。

《決勝》

MORI ALL WAVE KANOYA 7-0 厚木SC

日本リーグ「プラチナセクション」「サファイアセクション」の首位を走るチーム同士の対戦とあって注目が集まったが、予想外の一方的な試合展開となった。

先攻のMORI ALL WAVE KANOYAは初回、厚木SCの「エース」古屋英恵の立ち上がりを攻め、死球、犠打、安打、盗塁、四球で一死満塁とし、5番・福元彩未が三遊間を破るタイムリー！ まず1点を先制すると、二死後、死球による押し出しで2点目。さらに8番・谷川まきが満塁の走者を一掃する適時二塁打を放ち、初回到大量5点を先制。早々に試合を決めてしまった。MORI ALL WAVE KANOYAは3回表にも二死走者なしから7番・濱本叶美、8番・谷川まきの連打等で二死・三塁とし、鮮やかなダブルスチールで1点を追加。最終回にも代打・山根楓加、5番・福元彩未の長短打でさらに1点を加え、7-0の大差をつけた。

守っては、先発・竹原由菜、「エース」中野花菜とつなぐ投手リレーで厚木SC打線に最後まで得点を許さず、7-0の完封勝ち。大会3連覇の偉業を達成した。



MORI、猛打で3連覇達成！



2024.7.20~22 岩手県一関市 一関運動公園野球場 他

決勝戦ダイジェスト動画はこちらから



大会結果の詳細、準決勝・決勝のインングスコア等は日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで！

第64回全日本実業団男子選手権大会

令和 6 年 7 月 27 日（土）～29 日（月） 鹿児島県鹿児島市／南栄リース桜島グラウンド

記録提供：鹿児島県協会記録委員会



貫禄の連覇

本大会は鹿児島県鹿児島市南栄リース桜島グラウンドを会場に、7 月 27 日（土）～29 日（月）の 3 日間にわたり開催された。

鹿児島の「シンボル」である活火山「桜島」に見守られ、照り付ける灼熱の太陽の下、全国から集まった精鋭 32 チームが熱戦を展開！

大会最終日（29 日／月）の準決勝には、前回王者の Honda（栃木）、地元・鹿児島で初優勝を狙う山口水産、日本リーグ所属のジェイテクト（徳島）を破り、4 強入りを果たした安川電機（福岡）、実業団登録に変更して臨んだ昨年は惜しくも準優勝。今回 2 度目の挑戦で初の栄冠をめざす平林金属株式会社（岡山）の 4 チームが勝ち上がり、実業団男子の「頂点」をかけて最後の戦いに挑んだ。



〈準決勝〉 山口水産 0 - 3 Honda

長井風雅が山口水産打線を完封



試合はニュージーランド代表でもあるビタ・ロナ(山口水産)と男子TOP日本代表に選出された長井風雅(Honda)両投手の先発ではじまり、4回まで互いに無得点。迎えた5回裏、Hondaは二死から2番・川島大空の右前安打と連続四死球で満塁と攻め立てると、5番・藤原綜俊が一塁線を抜く適時二塁打! 二者を迎え入れ、さらに相手守備の乱れも絡んで一塁走者も還り、3点を先取!! 待望の先制点を挙げ、試合の主導権を握った。

投げては、先発・長井風雅が山口水産打線から12三振を奪う「気迫のピッチング」を披露! 最後まで得点を許さず、3-0の完封勝利で「大会連覇」へ王手をかけた。

〈準決勝〉 平林金属株式会社 1 - 2 安川電機

もう一方の準決勝は平林金属・小山玲央、安川電機・海邊和也の両先発投手が見応えのある投げ合いを展開。

試合が動いたのは4回表、平林金属は一死から2番・和田彩斗がワンボールからの2球目をとらえ、センター頭上を越えるソロホームラン! 決勝へ近づく先制点を奪った。

1点を追う安川電機も終盤6回裏、一死から代打・本田龍海が一・二塁間を破る安打で出塁。四球、内野ゴロで二死二・三塁の反撃のチャンスを得ると、2番・日高慶明の打球がピッチャー・小山玲央のグラブをはじき、セカンドへ転がる間に三塁走者が生還。同点に追いついた。

決勝進出を決めた安川電機



両先発投手が「意地」の投げ合い!

試合は1-1のまま延長タイブレークへ突入。8回表の平林金属の攻撃が無得点に抑えた安川電機はその裏、前の回から代わった平林金属の2番手・景山蓮に対してサードゴロ、四球で一死一・二塁となった状況から、8番・宮寄優介が初球のライズボールを狙い打ち! これが右越適時二塁打となって二塁走者がサヨナラのホームイン!! 劇的勝利で熱戦に終止符を打ち、決勝戦への切符をつかんだ。

《 決勝 》 安川電機 1 - 8 Honda

後攻のHondaは初回、酷暑の中での連投かつ準決勝で延長8回タイブレークに及ぶ死闘を投げ抜き、疲労を隠せない安川電機のエース・海邊和也の立ち上がりを攻め、二死から四球、敵失、連続四球で押し出し。まず1点を先制すると、なお二死満塁のチャンスで、7番・野澤空汰が左中間を抜く適時二塁打! 満塁の走者を一掃し、3点を加え、この一回一挙4点を奪った。

Hondaは2回裏にも代わった安川電機・小野武人を攻め、四球、敵失、盗塁等で一死二・三塁の好機を作り、代打・福田空脩の中越適時二塁打、6番・船原雄大の中前適時打で3点を追加。7-0と大きくリードを広げ、試合の大勢を決めると、1点を返された後の5回裏には無死二塁から7番・野澤空汰が中越適時二塁打を放って得点差を再び7点とし、「5回得点差コールドゲーム」が成立。8-1の圧勝で今大会を締めくくり、2年連続の優勝を飾った。



Hondaが「大会連覇」を達成

決勝戦ダイジェスト動画はこちらから

大会結果の詳細、全試合のイニングスコアは、
日本ソフトボール協会オフィシャルHPで!

第64回全日本実業団女子選手権大会

令和 6 年 7 月 27 日（土）・28 日（日） 石川県金沢市／金沢市営専光寺ソフトボール場

記録提供：石川県協会記録委員会



8 年ぶり 2 回目の優勝 花王コスメ小田原 フェニックス（神奈川）



優秀選手・小川瑠菜
（大和電機工業）



大会MVP・乗原ななみ
（花王コスメ小田原 フェニックス）

【大会概要】

標記大会は、7 月 27 日（土）・28 日（月）の両日、石川県金沢市・金沢市営専光寺ソフトボール場を会場に開催され、全国各プロリーグの代表 10 チームが「実業団女子日本一」の座をかけ、熱戦を繰り広げた。

大会初日は、1 回戦・2 回戦 6 試合が行われ、ベスト 4 が出揃い、「連覇」を狙う大和電機工業（長野）、日本リーグ「ブラチナセクション」で首位を走る平林金属 Peach blossoms（岡山）、同じく日本リーグ所属の小泉病院 Blue Arrows（広島）、花王コスメ小田原 フェニックス（神奈川）の 4 チームが勝ち上がり、準決勝に駒を進めた。

大会 2 日目（最終日）は準決勝・決勝の計 3 試合が行われ、大和電機工業が平林金属 Peach blossoms に 5-1 の逆転勝ち。決勝進出を決めた。もう一方のゾーンでは花王コスメ小田原 フェニックスが小泉病院 Blue Arrows を延長タイブレークにもつれ込む熱戦の末、2-1 で振り切り、決勝進出。

決勝では、「連覇」を狙う大和電機工業を相手に花王コスメ小田原 フェニックスが終始「先手」を奪う試合展開で 5-1 と快勝。大和電機工業の「連覇」を阻止し、8 年ぶり 2 回目の優勝、栄冠を手にした。

〈準決勝〉

大和電機工業 5-3 平林金属 Peachblossoms

二転三転の好ゲームとなったこの試合、2-3と1点をリードされて迎えた6回表、大和電機工業は安打と四球、内野ゴロ(一塁走者が二塁フォースアウト)、一塁走者の二塁盗塁で一死二・三塁の「一打逆転」のチャンスをつかみ、6番・小川瑠菜、7番・矢崎月菜の連続二塁打で一挙3点を奪い、5-3と試合をひっくり返した。

このリードを「エース」大串都未希が6安打され、3点を失いながらも「粘りのピッチング」で耐え抜き、決勝進出。苦しみながらも「連覇」へ王手をかけた。



大和電機工業、「連覇」へ王手

〈準決勝〉

花王コスメ小田原 フェニックス 2-1 小泉病院 Blue Arrows



花王コスメ小田原、決勝進出!

花王コスメ小田原 フェニックス・栗原ななみ、小泉病院 Blue Arrows・原田悠、両エースが一歩も譲らぬ投げ合いを展開。緊迫の投手戦は両チーム無得点のまま、延長タイブレークへともつれ込んだ。

8回表、花王コスメ小田原 フェニックスはタイブレークの走者が二死ながら三塁へ進塁。四球、盗塁で二・三塁とした後、3番・山岡未歩がセンター前にタイムリー! 二者が還り、2点のリードを奪った。

その裏、力投を続けてきた栗原ななみが1点を失いはしたものの、何とか踏ん張り、2-1で逃げ切り、決勝進出を決めた。

〈決勝〉

花王コスメ小田原 フェニックス 5-1 大和電機工業

両チーム無得点で迎えた3回表、花王コスメ小田原 フェニックスは一死一・三塁の先制機に一塁走者が「離塁アウト」を取られ、チャンスを潰したかに見えたが、3番・山岡未歩が二遊間をしぶとく破る先制のタイムリー! まず1点を先制し、4番・岡田南も左越二塁打で続き、二死二・三塁とチャンスを広げ、5番・松田采弓が中越の適時二塁打。二者を迎え入れ、この回3点を先制した。

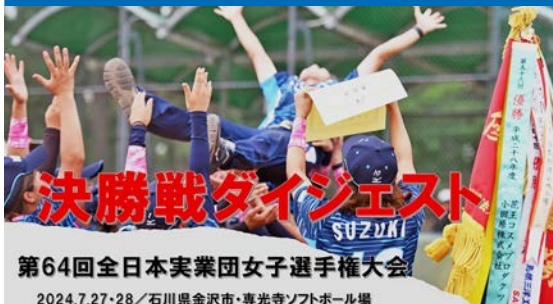
花王コスメ小田原 フェニックスは5回表にも4番・岡田南の犠牲フライで1点、6回表には1番・西愛実のタイムリーで1点と着々と加点。5-0と大きくリードを奪った。

一方、「連覇」へ執念を燃やす大和電機工業は再三走者を出し、塁上を走者が賑わすものの、花王コスメ小田原 フェニックスの「エース」栗原ななみに「要所」を締められ、相手チームを上回る11安打を放ちながら、得点は6回裏の1点のみ。チャンスに「決定打」を欠き、「連覇」を逃した。

花王コスメ小田原 フェニックスは「エース」の力投に応え、10安打・5得点。投打が噛み合い、8年ぶり2回目の優勝を手にした。



花王コスメ小田原、猛打で頂点へ!!



第64回全日本実業団女子選手権大会

2024.7.27・28/石川県金沢市・専光寺ソフトボール場



決勝戦ダイジェスト動画はこちらから

大会結果の詳細、準決勝・決勝のインングスコア等は
日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで!

◎第59回全日本高等学校男子選手権大会◎

令和6年7月28日（日）～31日（水）長崎県大村市／大村市総合運動公園広場

記録提供：長崎県協会記録委員会

九州産業大学付属
九州高等学校（福岡）

灼熱の太陽の下、激戦を展開！

高校ソフトボールの「頂点」を競う舞台、インターハイ。男子の部は、7月28日（日）～31日（水）の4日間にわたり長崎県大村市／大村市総合運動公園広場で開催された。

全国各地の厳しい予選を勝ち抜き、本大会には44チームが出場。高校生の選手たちにとってまさに「3年間の集大成」と位置づけられる大会だけあり、一投一打に「魂」が宿り、その「白熱の好ゲームの数々」が会場に訪れた多くの人々を魅了していた。

熱戦・激闘を勝ち上がり、ベスト4に名乗りを上げたのは九州産業大学付属九州高等学校（福岡）、啓新高等学校（福岡）、広島県立御調高等学校（広島）、長崎県立大村工業高等学校（長崎）。高校男子ソフトボールにおいて「全国の上位常連」とされる強豪校がいずれも勝ち残り、大会最終日「最後の決戦」に挑んだ。

〈準決勝〉 啓新高等学校 2－3 九州産業大学付属九州高等学校

初回到2点を先取された九産大九州は2回裏、この回先頭の4番・大神陸翔がセンターへ追撃のソロホームラン！ エース自らのバットで1点を返すと、5回裏にも内野安打、ワイルドピッチ、2つの四球で二死ながら満塁と攻め立て、5番・吉田駆流がレフトオーバーのタイムリーツーベース!! 二者を返し、3－2と逆転に成功した。

守っては、「サウスポーのエース」大神陸翔が立ち上がりこそ失点したものの、2回以降は得点を許すことなく被安打3・奪三振10の投球内容で完投勝利。接戦をモノにし、12年ぶりの決勝へ駒を進めた。



〈準決勝〉 御調高等学校 5－0 大村工業高等学校



先攻の御調は初回、一死二塁から3番・宮前弥莉唯が右中間へタイムリースリーベースを放ち、1点を先制。3回表にも2番・藤原桜大にソロホームラン飛び出し、2点目を加えると、7回表には再び2番・藤原桜大のタイムリーと相手投手の制球の乱れに乗じて決定的な3点を追加。地元優勝へ意気込む常勝・大村工業を相手に着々と得点を重ね、終わってみれば5－0の快勝！ 初の「インターハイ単独優勝」へ「王手」をかけた。

《決勝》 御調高等学校 3－4 九州産業大付属九州高等学校

試合が動いたのは3回表、御調が二死一・二塁から2番・藤原桜大の右中間へのスリーランホームランで3点を先取。主導権を握ったかに見えたが、その裏、九産大九州も二死二・三塁から5番・吉田駆流が負けじと3点本塁打を打ち返し、すぐに同点に追いついた。

3－3のまま迎えた5回裏、九産大九州は二死走者なしから4番・大神陸翔が「初球」を思い切って振り抜き、センターへ「会心の当たり」のソロホームラン！ 投打の大黒柱が値千金の「2試合連続アーチ」を叩き込み、4－3と勝ち越しに成功した。

投げては、その勝ち越し弾を放ったエース・大神陸翔が自らの真骨頂でもある「気迫溢れるピッチング」で相手打線に立ち向かい、先制の一発を許しはしたが、この決勝も被安打3・奪三振14の熱投。そのまま優勝を飾り、歓喜が爆発!! 14年ぶり3回目「インターハイチャンピオン」に輝いた。



九産大九州・大神陸翔は今大会投打に活躍！大会MVPに選出された

**大会トーナメント表、全試合イニングスコアは
日本協会オフィシャルサイトで！**

第76回全日本高等学校女子選手権大会

令和6年7月21日（日）～25日（木） 長崎県大村市／大村市総合運動公園広場

記録提供：長崎県協会記録委員会



10年ぶり 4回目の優勝

神村学園高等部（鹿児島）



優秀選手・知野見桃子
（多治見西高等学校）



大会MVP・勝山美桜
（神村学園高等部）

【大会概要】

標記大会は、7月21日（日）～25日（木）、長崎県大村市・大村市総合運動公園広場を会場に開催された。

大会には全国各都道府県の代表48チームが集い、「高校女子日本一」の座をかけ、熱戦を繰り広げた。

大会初日は1回戦16試合、2日目は2回戦16試合、3日目は3回戦8試合・準決勝4試合の計12試合、最終日に準決勝2試合・決勝1試合の計3試合が灼熱の太陽のもと、実施された。「危険な暑さ」の中での大会となり、「熱中症対策」としてベンチ裏にはミスト扇風機が設置され、4回終了時に「給水タイム」を設け、守備につく時間が一定時間を超えた場合にも、守備側から申し出があれば「給水タイム」を取ることができる等、様々な方策が講じられていた。

大会は「春・夏連覇」を狙う多治見西高等学校（岐阜）、昨年準優勝の神村学園高等部（鹿児島）、上位進出の「常連」佐賀女子短期大学付属佐賀女子高等学校（佐賀）、本大会28年ぶりの出場で東北勢としては「初」のベスト4進出を果たした岩手県立立花巻南高等学校（岩手）の4校が最終日の準決勝に駒を進め、「日本一」をかけた「最後の決戦」に臨んだ。

〈準決勝〉

岩手県立花巻南高等学校 0 - 2 多治見西高等学校

春・夏連覇を狙う多治見西は3回裏、四球で出塁した走者を手堅く犠打で三塁へ進め、1番・渡辺華奈が右越適時三塁打。「U18日本代表」にも選出されている「キャプテン」の一打で先手を取った。1点をリードして迎えた終盤6回裏には、1番・渡辺華奈が四球で出塁すると、すかさず盗塁。次打者のピッチャーゴロの間に三塁へ進み、3番・久野日奈多がセンターへ犠牲フライを打ち上げ、三塁走者が還り、ダメ押しの2点目。

守っては、こちらも「U18日本代表」に選出されている「エース」知野見桃子が見事なピッチングで完封。「春・夏連覇」に王手をかけた。



先制三塁打を放った
多治見西・渡辺華奈

〈準決勝〉

佐賀女子短期大学付属佐賀女子高等学校 2 - 3 神村学園高等部



劇的サヨナラで神村が決勝へ

佐賀女子は3回表に先手を取ったが、神村が5回裏に逆転。最終回、佐賀女子が2-2の同点に迫につき、試合は延長タイブレークへとつれ込んだ。

佐賀女子は8回表、タイブレークの走者を犠打で三塁へ進めたが、後続なく無得点。その裏、神村は故意四球、犠打野選で無死満塁と攻め立て、2番・中村あづきがセンター前に落とす劇的なサヨナラ安打。佐賀女子を3-2で振り切り、2年連続となる決勝進出を決めた。

佐賀女子は太陽光が目に入る不運な安打から同点に迫いつかれ、そこから逆転を許し、最終回、同点に迫いつく粘りを見せたが……準決勝で力尽きた。

《決勝》

神村学園高等部 1 - 0 多治見西高等学校

神村・勝山美桜、多治見西・知野見桃子、両投手が一步も譲らぬ投げ合いを展開。両チーム得点できず、0-0のまま、試合は延長タイブレークに突入した。8回表、神村はタイブレークの走者を確実に犠打で三塁へ進め、9番・藤田莉心が粘った末の8球目、ピッチャー前に転がし、三塁走者が判断良く本塁を陥れ、待望の先取点を挙げた。

その裏、多治見西は2番・別府柚良のレフト前ヒット、盗塁で一死二・三塁の「一打逆転サヨナラ」の場面を作ったが、後続が見逃し三振、ピッチャーゴロに倒れ、無得点。熱戦に終止符が打たれ、神村が10年ぶり4回目の優勝を飾った。

この試合を戦った神村・有住隆監督と多治見西・上松美香子監督は「実のご兄弟(姉弟)」、史上初の「兄弟対決」は白熱の好ゲーム、息詰まる投手戦を演じ、「弟」が「姉」を破り、チームとしては10年ぶり4回目の栄冠。有住監督は、春の全国高校選抜で「初」の「全国制覇」を成し遂げた姉・上松監督に続き、自身初の「全国制覇」「インターハイ優勝」に辿り着いた。



神村、10年ぶりの頂点へ!



大会結果の詳細、準決勝・決勝のインニングスコア等は [日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ](#)で!

第38回全日本小学生男子大会

令和6年8月3日（土）～6日（火） 埼玉県戸田市／彩湖・道満グリーンパークソフトボール場
記録提供：埼玉県協会記録委員会



二川ジュニア（広島）

初の栄冠に輝く！



優秀選手・前村洋星
（西谷山ソフトボールスポーツ少年団）



大会MVP・吉井龍之介
（二川ジュニア）

【大会概要】

標記大会は、8月3日（土）～6日（火）、埼玉県戸田市／彩湖・道満グリーンパークソフトボール場を会場に開催された。

大会には全国各都道府県の代表48チームが集い、「小学生男子日本一」の座をかけ、熱戦を繰り広げた。

大会初日は1回戦16試合、2日目は2回戦16試合、3日目は3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合、最終日に準決勝2試合・決勝1試合の計3試合が容赦なく照りつける太陽のもと、実施された。

酷暑の中で大会となり、「熱中症対策」として会場出入口にはミストシヤワーが設置され、2回、4回、6回終了時に「給水タイム」を設け、守備につく時間が20分を超えた場合にも、「給水タイム」をとる等、万全の体制を敷き、試合が行われた。

今大会は「西高東低」となり、ベスト8に勝ち進んだ8チームのうち7チームが「西日本勢」。ベスト4も鹿児島代表の西谷山ソフトボールスポーツ少年団、広島県代表の中央ファイターズ、二川ジュニア、福岡県代表の釜蓋ジュニアソフトの4チームが勝ち上がり、「西日本勢」が独占。最終日の準決勝・決勝に駒を進めた。

〈準決勝〉

西谷山ソフトボールスポーツ少年団 1-0 中央ファイターズ



白熱の好ゲームを展開

西谷山・前村洋星、中央ファイターズ・河野優輝、両投手が好投し、息詰まる投手戦を展開。両チーム無得点で迎えた6回表、西谷山はこの回先頭の2番・前村洋星が四球を選び、出塁。3番・前野瑛太の三遊間を破る安打で無死一・二塁とし、手堅く犠打で走者を二・三塁へ進めた後、5番・大浦陽喜のセカンドゴロがフィルダースチョイスとなり、三塁走者が生還。結局、この1点が決勝点となった。

守っては、「エース」前村洋星が被安打1・奪三振10の力投。6回終了時点で制限時間を超え、1-0で勝利を収め、決勝進出を決めた。

〈準決勝〉

二川ジュニア 3-0 釜蓋ジュニアソフト

先攻の二川ジュニアは初回、二死走者なしから3番・清末稜真のライト線への三塁打、4番・吉井龍之介の三遊間を抜くタイムリーで先取点を挙げた。5回表にも、二死走者なしから四球、盗塁、3番・清末稜真、4番・吉井龍之介の長短打で2点を追加。3-0とリードを広げた。

守っては、「エース」清末稜真が好投。投球数96、奪三振13、内野ゴロ8で外野に打球を飛ばすことすら許さず、四球・失策で走者を出したものの、ノーヒット・ノーランを達成！ 投打に大活躍を見せ、3-0の完封勝ちで決勝戦へ駒を進めた。



投打に活躍！ 清末稜真

《決勝》

二川ジュニア 3-0 西谷山ソフトボールスポーツ少年団



2試合連続ノー・ノー！

清末稜真

両チーム無得点で迎えた4回表、二川ジュニアはこの回先頭の4番・吉井龍之介が三遊間を抜く安打で出塁すると、ワイルドピッチと次打者の内野ゴロの間に三塁まで進塁。続く6番・永野太一への4球目が痛恨のワイルドピッチとなり、三塁走者が還り、二川ジュニアが先取点を挙げた。二川ジュニアは6回表にも一死から4番・吉井龍之介が四球で出塁すると、すかさず盗塁。5番・清末稜真のセカンドゴロで一塁アウトとなる間に、二塁走者・吉井龍之介が一気にホームイン！ 相手守備陣の一瞬の隙を見逃さず、好判断・好走塁で本塁を陥れ、貴重な追加点を挙げた。

こうなると試合は二川ジュニアのペース。準決勝でノーヒット・ノーランを達成した好投手・清末稜真が、この試合も快投乱麻のピッチング！ 6回ツーアウトまで一人の走者も許さぬパーフェクトピッチングを続け、四球の走者を出し、「完全試合」はなくなったものの、試合終了まで「安打」を許すことなく、2試合連続のノーヒット・ノーランを達成!! 投球数88、奪三振9、内野ゴロ7、内野フライ2、外野フライ3、四球の走者を一人許したのみの完璧な投球内容で準決勝・決勝2試合連続ノーヒット・ノーランの大記録を成し遂げ、チームの初優勝に大きく貢献した。



[決勝戦ダイジェスト動画はこちらから](#)

大会結果の詳細、準決勝・決勝のインングスコア等は
[日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで！](#)

第24回全日本中学生男子大会

令和6年8月11日（日）～13日（火） 福岡県福岡市／雁の巣レクリエーションセンター ソフトボール場
記録提供：福岡県協会記録委員会



5年ぶり2回目の栄冠！



優秀選手・藤野新汰
(新見ジュニアソフトボールクラブ)



大会MVP・津田峻弥
(FSC／福井県ソフトボールクラブ)

【大会概要】

標記大会は、8月11日（日）～13日（火）、福岡県福岡市／雁の巣レクリエーションセンターソフトボール場を会場に開催された。

大会には全国各都道府県の代表24チームが集結。熱戦を繰り広げた。

大会初日は4会場で行われ、1回戦8試合・2回戦8試合の計16試合、2日目は準々決勝4試合・準決勝2試合の計6試合、最終日に決勝1試合が行われた。

灼熱の猛暑の中での大会となり、「熱中症対策」として、2回、4回、6回終了時に「給水タイム」を設け、守備につく時間が20分を超えた場合にも、「給水タイム」を取る等、対策を講じ、試合を実施した。

中学生の全国大会といえば中体連の「全中」というイメージがあったが、男子は2027年度の大会から実施されないことが決定してしまっている。それだけにこの「全日本中学生大会」と春に開催されている「都道府県対抗全日本中学生大会」の開催意義はより大きなものとなり、大切にしなければならぬ大会となってくる。

まずは両大会に全国各都道府県の代表が揃い（今大会参加チームは24チーム、都道府県対抗は21チーム）、開催されるよう努力していく必要がある。

〈準決勝〉

FSC(福井県ソフトボールクラス) 6-3 熊本オールスターズ(5回時間切れコールド)



FSC、決勝進出

先攻のFSCは初回、2番・松村伊晟、3番・津田峻弥の長短打とワイルドピッチで先取点を挙げ、続く2回表には8番・北川陽にツーランホームラン(ランニングホームラン)が飛び出し、2点を追加。3回表には4本の長短打を集め、3点を加え、着々とリードを広げた。

一方、熊本オールスターズは4回裏、相手守備の乱れに乗じて1点を返し、5回裏にも連続四球、ワイルドピッチ等で一死二・三塁の反撃機をつかみ、3番・天川達陽の犠牲フライ等で2点を返し、反撃ムードが高まったところで無念の時間切れ。決勝進出はならなかった。

〈準決勝〉

愛知PHOENIX S.B.C 1-5 新見ジュニアソフトボールクラス

後攻の新見ジュニアは初回、1番・中山丈琉がセカンド内野安打で出塁し、相手守備の乱れから先取点を挙げ、4番・藤野新汰、5番・後藤大輝の連打で1点を追加。初回到2点を先制した。

一方、愛知PHOENIXは5回表、四球、犠打等で二死二塁とし、1番・首藤康之介の中越適時二塁打で1点を返し、1点差に詰め寄った。

1点差に追い上げられた新見ジュニアはその裏、相手守備の乱れと3番・井上大輔のタイムリー等で決定的な3点を追加。愛知PHOENIXを突き放し、このリードを「エース」藤野新汰が守り切り、決勝進出を決めた。



愛知PHOENIXは準決勝敗退

《決勝》

FSC(福井県ソフトボールクラス) 8-1 新見ジュニアソフトボールクラス(5回得点差コールド)

先攻のFSCは初回、1番・西野那詔、2番・松村伊晟の連打とパスボールで無死二・三塁の先制のチャンスをつかみ、3番・津田峻弥の一・二塁間を抜くタイムリーでまず2点を先制。本塁への送球の間に打者走者が三塁へ進塁し、4番・西岡偉琉の二遊間を抜くタイムリーで三塁走者が還り、3点目。5番・酢谷椋太の右中間への安打で無死一・三塁とし、盗塁、パスボールで4点目を挙げた後、6番・猿橋賢人にレフトスタンドへ運ぶツーランホームランが飛び出し、怒涛の6連続長短打で6点を奪う猛攻! 初回で勝負を決めてしまった。

新見ジュニアも「意地」を見せ、3回裏、一死一・二塁の反撃機を作り、3番・井上大輔の適時二塁打で1点を返したが反撃もここまで。

その直後の4回表、パスボールとバント安打等で2点を奪われ、8-1と7点差をつけられ、4回裏、5回裏と得点を挙げる事ができず、大会規程により5回得点差コールドが成立。FSCが5年ぶり2回目の優勝に輝いた。



FSCが初回から怒涛の攻撃を見せ、5年ぶりの優勝



決勝ダイジェスト



[決勝戦ダイジェスト動画はこちらから](#)

大会結果の詳細、準決勝・決勝のインングスコア等は
[日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで!](#)

第24回全日本中学生女子大会

令和6年8月10日（土）～12日（月・祝） 大阪府堺市／みなと堺グリーン広場

記録提供：大阪府協会記録委員会



AICHI DREAM RUSH(愛知)

3年ぶり3回目の優勝！



優秀選手・田中亜胡
(フェアリー大阪)



大会MVP・伊藤綸華
(AICHI DREAM RUSH)

【大会概要】

標記大会は、8月10日（土）～12日（月・祝）、大阪府堺市／みなと堺グリーン広場を会場に開催された。

大会には全国各都道府県の代表48チームが集結。熱戦を繰り広げた。

大会初日は8面を使用し、1回戦16試合・2回戦16試合の計32試合、2日目は3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合、最終日に準決勝2試合・決勝1試合の計3試合が実施された。

厳しい暑さの中での大会となり、「熱中症対策」として、2回、4回、6回終了時に「給水タイム」を設け、守備につく時間が20分を超えた場合にも、「給水タイム」を取り、試合が行われた。

中学生の全国大会といえは中体連の「全中」こそ「最高峰の大会」といったイメージがあったが、近年は各チームの「クラブ化」が進み、女子U18日本代表選手のプロフィールを見ても、そのほとんどが中学時代「クラブチーム」でプレイし、この大会に出場している選手ばかり。時代の移り変わりとはいえ、今後、部活動の地域移行や中体連の全国大会の実施種目削減（男子ソフトボールはその実施種目から外されてしまった）の方向性を見る限り、中学生チームの「クラブ化」はますます加速していくと考えられる。

《準決勝》

埼玉レッドスティーディオ 2-4 フェアリー大阪（6回時間切れコールド）



フェアリー大阪、決勝へ

後攻のフェアリー大阪は初回、1番・藤井愛夢がいきなり先頭打者ホームラン！ さらに2番・曾我菜月のバント安打とワイルドピッチで得点圏に走者を進め、二死後、5番・奥須賀愛実が三遊間を破るタイムリーを放ち、この回2点を先制。続く2回裏にも3番・田中亜胡の適時内野安打で1点を追加し、3点のリードを奪い、有利に試合を進めた。

一方、埼玉レッドスティーディオは3回表、相手投手の制球難につけ込み、5四球を選び、押し出しで2点を返し、4回表にも一死二・三塁の一打逆転のチャンスを作ったが得点なく、その裏、逆に追加点を奪われ、惜しくも敗れた。

《準決勝》

諫早シャイニングガールズ 1-3 AICHI DREAM RUSH（5回時間切れコールド）

先攻の諫早シャイニングガールズは初回、先頭打者が安打で出塁したものの、離塁アウト。連続四球で一死一・二塁とした後、4番・松尾知香子の左越適時二塁打で先取点を挙げた。

AICHI DREAM RUSHはその裏、1番・伊藤綸華が四球で出塁し、すかさず盗塁。次打者のセカンドゴロで三塁へ進塁した後、3番・西田唯称の二遊間を抜くタイムリーで1-1の同点に追いついた。続く2回裏には、二死走者なしから1番・伊藤綸華がレフト線を抜くランニングホームラン！ 1点を勝ち越し、4回裏にも3番・西田唯称のタイムリーで1点を加え、3-1で勝利を収めた。



ADRが逆転で決勝進出

《決勝》

AICHI DREAM RUSH 6-0 フェアリー大阪

AICHI DREAM RUSHは3回表、連続四球、犠打で一死二・三塁の先制機をつかみ、2番・濱沙杏花の叩きつけた打球が懸命に差し出したピッチャーのグラスをはじき、ショートの前に転がる間に三塁走者が生還。先取点を挙げた。なお二死三塁のチャンスが続き、3番・西田唯称は空振り三振……と思われたが、これが三振振り逃げ（記録は空振り三振とワイルドピッチ）となり、2点目を挙げた。AICHI DREAM RUSHが2点をリードして迎えた6回表には、相手投手の制球が乱れ、1イニング6四球。ワイルドピッチ、押し出しの四球等、大荒れのピッチングとなり、2番・濱沙杏花の勝利を決定づけるタイムリーもあり、この回大量4点を挙げ、6-0と大差をつけた。

守っては、先発・伊藤綸華が好投。懸命に反撃を試みるフェアリー大阪打線をわずか3安打に抑え込み、最終回の二死満塁のピンチも最後の打者をセンターフライに打ち取り、見事な完封。6-0で勝利を収め、3年ぶり3回目の優勝を手にした。

投打に大活躍で優勝に貢献！
ADR・伊藤綸華（左）と西田唯称

第24回 全日本中学生 女子ソフトボール大会 決勝ダイジェスト

2024.8.10~12
大阪府堺市
みなと堺グリーン広場



[決勝戦ダイジェスト動画はこちらから](#)

大会結果の詳細、準決勝・決勝のイニングスコア等は
[日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ](#)で！

●第70回全日本教員大会●

令和6年7月27日（土）～29日（月）香川県丸亀市／土器川公園河川敷ソフトボール場
記録提供：香川県協会記録委員会



教員大会も「70回」の節目に

「第70回」の歴史・伝統を誇る「全日本教員大会」は、7月27日（土）～29日（月）の3日間、香川県丸亀市／土器川公園河川敷ソフトボール場を会場に開催された。

昭和30年「全日本総合大会」として第1回が開催された本大会は、第10回大会開催時「全日本教員選手権大会」へ大会名を改称。平成29年第63回大会から使用球がゴムボールに変更され、大会の位置づけも競技部門から生涯部門へ移り変わることになった。そして今年度（令和6年度）、「全日本教員大会」へとその名を改める形になった。

節目となった今大会でベスト4に残ったのは、3連覇を狙う高知教員クラブ（高知）をはじめ、名古屋教員クラブ（愛知）、滋賀教員アナナス（滋賀）、サンセット糸島（福岡）。それぞれが大会最終日、教員ソフトボール「日本一」の座をかけて「最後の戦い」に臨んだ。

〈準決勝〉 名古屋教員クラブ 4-0 高知教員クラブ

名古屋教員は2回表、一死から6番・諏訪直哉が右中間へ二塁打。二死後、三盗を成功させると、8番・松島佳祐のタイムリーで生還し、1点を先取。1点リードのまま迎えた5回表には、先制点を叩き出した8番・松島佳祐の二遊間安打を足場に、犠打失策、1番・長谷川裕人、3番・伊藤元晴の適時打等で大きな3点を加え、勝利をグッと引き寄せた。

守っては、先発・伊藤元晴が高知教員打線に6安打されながらも、決定打を許さない「粘りのピッチング」を展開。最後は大会規程による6回時間切れで4-0の完封勝利を収め、決勝進出を決めた。



〈準決勝〉 サンセット糸島 4-7 滋賀教員アナナス



両チーム無得点で迎えた3回裏、滋賀教員は相手投手の制球の乱れにつけ込み、5番・中瀬大希のツーランホームラン、8番・洲崎力哉のタイムリー等で3点を先制。その後サンセット糸島の反撃を受けながら、4回裏にも6番・大橋良平、7番・吉田昌平の連続タイムリー等で3点、5回裏には9番・西村友佑、1番・安居新の長短打で1点を追加してリードを保ち、激しい打撃戦は最終的に6回終了時点で時間切れとなり、7-4で滋賀教員アナナスが勝利。決勝へ駒を進めることになった。

〈決勝〉 名古屋教員クラブ 7-3 滋賀教員アナナス

先攻の名古屋教員は初回、一死から2番・渡邊康平、3番・伊藤元晴の連続ツーベースで早々と1点を先制。3回表にも1番・長谷川裕人の内野安打を口火に3番・伊藤元晴、4番・堀部拓馬の長短打等で3点を加え、リードを広げると、5回表には8番・日下啓雄のタイムリーツーベースを含む4安打を浴びせ2点、6回表にも相手守備の乱れに乗じて1点を追加。着実に得点を重ねた。

投げては、連投のエース・伊藤元晴が滋賀教員打線に3点を返されはしたものの、大量リードにも守られ、7-3で勝利！ 今大会「49点」を奪った「自慢の攻撃力」を決勝でも見せつけ、3年ぶり5回目の優勝をつかんだ。



「投打の大黒柱」として奮闘した伊藤元晴が「大会 MVP」に！

大会トーナメント表、全試合イニングスコア、決勝戦ダイジェストは
日本協会オフィシャルサイトで！

酷暑の中…大会を支えてくださった皆さんに感謝



7月20日（土）、第45回全日本クラブ男子・女子選手権大会の開催を皮切りに、各種別・各カテゴリーでの「全日本大会」（全国大会）が全国各地で開催されている。

今年の夏は「猛烈な暑さ」の中での大会開催となっており、生命に関わる「危険な暑さ」と表現されるほど。

その中で、「熱中症対策」に細心の注意を払い、万全の体制を整えるべく全国各地の開催地の皆さんが努力を続けてくれている。

大会に臨む選手・チームの皆さんも「日本一」の座をめざし、全力の戦いを見せてくれているが、その大会を支える審判員・記録員の皆さん、大会運営を支えてくれる皆さんがいてくれるからこそ滞りなく大会が運営され、成り立っている……ということを忘れてほしくない。

これだけの暑さが続くと、今後、大会の開催時期の検討や試合開始時間を早朝や夜間に設定する等の措置も検討されていくことになると思われ、現行の大会でも、2回、4回、6回終了時に給水タイムを取り、攻撃が20分を超えた場合にも試合を止め、給水タイムを取る等の措置が取られている。

ここでは、夏の全日本大会を支えてくださっているすべての皆さんに感謝を込め、その奮闘ぶりをお伝えする。

第45回全日本クラブ男子・女子選手権大会



第64回全日本実業団男子・女子選手権大会



第76回全日本高等学校女子選手権大会



第59回全日本高等学校男子選手権大会



第70回全日本教員大会



第38回全日本小学生男子大会



第24回全日本中学生男子・女子大会



大会を支えてくださったすべての皆さんに

感謝を！





令和6年度 第4回理事会議事録

審議に先立ち、本理事会は会場集合方式とインターネット会議方式（Zoomミーティング）の併用とし、出席者が一堂に会するのと同等に適時・的確な意見表明が互いに行える状態となっていることを確認。理事25名中出席22名（欠席3名）、監事出席3名で定款第36条に基づき本理事会は成立することが確認された。

● 審議事項

第1号～第3号議案
常務理事、各本部長、副本部長、
担当理事、各専門正副委員長について

岡本専務理事より、事業統括、事業運営、企画推進、普及、国際、選手強化各本部の体制について提案され、原案通り承認され、各本部長より就任の挨拶があった。

第4号議案
LA28五輪特別組織の
設置について

岡本専務理事より、LA28五輪へ向



けて「特別組織」を設置することが提案され、原案通り承認された。

期日…令和6年6月23日（日）
13:00～14:30

場所…東京都新宿区/Japan
Sport Olympic
Square及びインター
ネット会議方式併用

理事現在数…25名
出席理事…22名
欠席理事…3名
出席監事…3名
議長…会長 牧島かれん

第5号議案

各国際大会チームリーダーについて

岡本専務理事より、令和6年度に開催される各国際大会の派遣スタッフについて次のように提案された。

（1）第17回女子ワールドカップ

ファイナルステージ

①派遣期間…7月10日～24日

②派遣場所…イタリヤ

（2）第15回女子U18

ワールドカップ

グループステージ

①派遣期間…8月7日～19日

※8月7日～11日／高知県高知市での直前合宿を含む。

②派遣場所…中国

（3）第18回男子ワールドカップ

グループステージ

①派遣期間…9月12日～24日

②派遣場所…アメリカ

（4）第4回女子大学

アジアカップ

①派遣期間…10月11日～20日

②派遣場所…台湾

以上の大会について、派遣スタッフ等の詳細が提案され、（4）の「第4回女子大学アジアカップ」について、実質スタッフ4名では厳しく、生活支援・現場指導・日本協会への報告等、多岐にわたる業務をこなしていく必要があることを考えると、ヘッドコーチとチームリーダーの兼務は厳しく、派遣スタッフを1名追加し、せめてチームリーダーとヘッドコーチの業務を分けること、役割分担を行うことを検討していただきたいとの意見・要望が出され、本日すぐに結論を出すことはできないので、**継続審議**となった。

また、（1）の「第17回女子ワールドカップファイナルステージ」については、事務局から3名もの派遣を行うのは、事務局の人手が不足している現状を鑑みると、再考の余地があるのではないかと意見が出されたが、それぞれ派遣される立場・役割も違い、今大会だけでなく、今後の国際的な日本協会の立場や果たすべき役割を考え、特に「LA28五輪」を見据えた強化を含めた準備を進めて行く上で、事務局長を含め、事務局から3名の派遣が必要であるとの判断であることが説明され、事務局の体制が皆さんに不安を感じさせない状態・状況とすること。財政面を健全化させ、赤字解消をめざすこと。派遣の成果をしっかりと公表すること。

その上で今回の派遣について改めて理解が求められ、（1）～（3）については、**承認**。（4）については**継続審議**となった。

第6号議案

ミズノ革・ゴム用FRPバット
リコールについて

矢端事務局長より、ミズノ製バットリコールについてミズノ社報告資料をもとに説明された。

日本協会としては先日の高野連を参考にもホームページ上で情報公開を行う予定であることが説明され、本理事会での議論・協議内容を踏まえ、併せてミズノさんと協議・共有し、情報発信・情報公開を行っていくことが確認され、**承認**された。

※現在、日本協会HP上で「ミズノ株式会社製バットのリコールについて」情報公開中。

●報告事項

矢端事務局長より、常務理事会・理事会の後期日程案について事前に資料をお送りし、調整させていただき、7月3日の常務理事会並びに7日の理事会で諮ることが報告された。

また、瀬戸山常務理事より、松田選

手強化本部長に、数日前に男子TOP代表選手選考結果がメールで連絡がきたが、今回の理事会への提案・承認でよかったのではないかと、との意見が出された。



役員改選後最初の理事会のあり方について意見を述べる瀬戸山常務理事（右）

併せて新体制になって最初の理事会であり、事務局員全員が出席し、顔合わせを行った方が良かったのではないかと意見が出された。

男子TOP日本代表の選考結果については、選手の所属先への連絡及び相談を優先させたこと、選考の段階では理事会日程が未確定であったことから、メールでの連絡・承認としたことが説明され、事務局員全員の出席についても今後配慮していくことが確認された。

令和6年度第5回理事会議事録

審議に先立ち、本理事会は会場集合方式とインターネット会議方式（Zoomミーティング）の併用とし、出席者が一堂に会するのと同等に適時・的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認。理事25名中出席17名（欠席8名）、監事出席2名（欠席1名）で定款第36条に基づき本理事会は成立することが確認された。

●審議事項

第1号議案

各委員会の委員任命について

岡本専務理事より各委員会委員任命について提案され、各本部長より新任挨拶があり、必要に応じて補足説明を行った。

これらの提案・説明があり、審議が行われ、第1号議案は承認された。

第2号議案

令和6年度

後半期諸会議について

矢端事務局長より後期会議日程案に

ついて、前回の常務理事会から「第6回常務理事会」開催日を10月21日から10月28日に変更しているが、その他は変更なく、「第10回理事会」並びに「第2回評議員会」のオンライン開催については継続審議とすることが提案され、第2号議案は承認された。

第3号議案

倫理・コンプライアンス委員会

提案事項

岡本専務理事より、パワハラ案件について弁護士調査結果を基に「第2回倫理・コンプライアンス委員会」で審議した結果、「処分を行うことは相当ではない」と判断し、本理事会へ提案され、第3号議案は原案通り承認された。

第4号議案

大会派遣役員案

大会派遣役員について、瀬戸山常務理事より、事前に常務理事8名の都合を確認した上で作成された大会派遣役員案が説明され、第4号議案は原案通り承認された。

第5号議案

強化戦略プラン並びに
LA28タスクフォースの
発足について

岡本専務理事より、LA28決定後にハイパフォーマンスポーツセンターから「強化戦略プラン」策定の依頼を受け、作成した「強化戦略プラン（案）」並びに「五輪特別組織（タスクフォース）」について説明され、次の人事提案がなされた。

① ハイパフォーマンステレクター

矢端信介

② ハイパフォーマンズ

アシスタントディレクター

（TOPカテゴリー）

山田恵里

③ ハイパフォーマンズ

アシスタントディレクター

（アンダーカテゴリー）

山本優

④ ナショナルヘッドコーチ

宇津木麗華

⑤ ナショナルチームコーチ

上野由岐子

期日…令和6年7月7日（日）

13…00～14…25

場所…東京都新宿区/Japan

Sport Olympic

Square及びインター

ネット会議方式併用

理事現在数…25名

出席理事…17名

欠席理事…8名

出席監事…2名

欠席監事…1名

議長…会長 牧島かれん

⑥ エグゼクティブアドバイザー

栗山利宏

⑦ メディカルスタッフ

（トレーナー）

※新代表決定後に2名を選任予定

⑧ 情報科学スタッフ

（情報収集・分析）

大田穂

ルーシー・カサレス

⑨ 競技サポートスタッフ

田河眞美

すでにJOC（公益財団法人日本オリンピック委員会）にて予算化されており、本年9月からスタートさせたいとの意向が示された。
また、矢端事務局長から次のような補足説明がなされた。

①オリンピック競技になるとスポーツ庁から日本スポーツ振興センター経由で助成金が下りてくる。

②強化戦略プランについては毎年更新したものをJSSC（独立行政法人日本スポーツ振興センター）に提出する必要があるが、年度末に共同コンサルテーション（面談）が実施され、スポーツ庁・スポーツ振興センター・JOC等の代表者に対し、年間戦略プランに従った結果どのような成果があったかを報告する必要がある。

③代表選手及び代表ヘッドコーチの選考方法・選考時期等の詳細が記載されている関連資料を熟読の上、ご承認いただきたい。

以上の説明・提案を受け、現在、スケートのハイパフォーマンスディレクターを担当している伊東副会長より、ハイパフォーマンスディレクターの役割について補足説明があり、スケートの場合、スピード・ショート・フィギュアの3つの競技について情報収集統括が役割となっている。それぞれの強化部長とコンタクトを取り、代表選手の選考の他、様々な決定事項のサポート・フォローを行い、強化を束ねるポジションであることが改めて説明された。また、宇津木妙子副会長より、ハイパフォーマンスディレクターは、矢

端事務局長が適任だとしても事務局長との兼務は果たすべき役割、担うべく業務が多過ぎるのではないかと懸念も示された。

このことを受け、岡本専務理事より、今後、事務局体制の強化についてはしっかりと議論・協議し、事務局を機能させ、同時に「LA28五輪」へ向けた準備も怠りなく進めていくことが確認され、事務局運営が疎かにならないことを最優先に、早々に具体的な方向性を示していくことが説明・了承された。

第6号議案

名鉄観光協賛金の減額について

矢端事務局長より、名鉄観光サービスから今夏開催の小学生男女大会協賛金について減額した協賛契約締結の依頼が来ていることが説明された。

男子大会は48チーム中14チーム、女子大会は42チーム中11チームで、ともに最低ライン20チームを下回ったことから男子大会は70%、女子大会は55%の協賛金額となることが説明され、本条件での契約締結について諮られた。

また、既に予算を組んでいる支部協会に対しては日本協会で補填することが併せて説明された。

来年度以降は名鉄観光を使ってくだ

さいともう少し強めをお願いするのか、名鉄観光との契約内容を見直す必要があるのかについて今後議論していく必要があるが、従前通り「優先的に使っていたきたい」だと同じことの繰り返しになる恐れがある。「ここを利用しない」と大会に参加できない」等の縛りを設け、縛りを設けるからには、現行一大会100万円の協賛金を、例えば200万に増額し、提示していただき、支部協会に還元していく方向での協議を今後させていただきたいとの事務局提案がなされた。

協賛金は予算上大きなウェイトを占めるため、フォトクリエイト同様に縛りを設けたほうが開催地にメリットがあると考えられるが、支部協会によっては従前から付き合っている旅行会社がある場合もあり、そのあたりがクリアできるのか、慎重に検討・協議していくことが確認され、第6号議案は承認された。

・その他

1. 表彰選考委員会について

表彰選考委員会が組織編成上なくなってしまうているが、今年度からどうするのかとの質問があり、今年度も従前どおり通り継続することが確認され、

今回の理事会議案には挙がっていないが、専務理事と相談して今後理事会に提案する。

2. 指導者資格保有者について

前回の常務理事会で「指導者資格保持者が試合当日不在の場合の対応について」議論となり、過去5年間の調査をしたところ、令和4年度に1件（身内の不幸で急遽不参加）、令和5年度に2件、うち1件はコロナ感染者の濃厚接触者、もう1件は和歌山で開催の教員大会で和歌山の理事長と相談し、練習試合とした事例があった。没収試合としたところだが、引き続き資格取得者を複数人に増やすことと、所属協会長及びチームの始末書提出すること、という措置を進めていく方向性が示され、改めて総務委員会で議論し、報告することが了承された。

また、悪質な事例ではなく、やむを得ない事情の場合は勘案する余地があり、その上で複数名の指導者資格保有者を置くことをチームに推奨していくことで理事会における共通理解が図られた。

小学生の塁間距離について

小学生の投球距離について来年度か

ら 10・67 m から 12・19 m に延長される
が、塁間距離も 18・29 m に同時進行す
ることが検討されている。

日米対抗について

日米対抗が現在行われており、入場
者数は名古屋が 4327 名、富士宮が
2838 名。平日開催ということもあ
り名古屋が想定ほど動員できなかった。
明日の横浜は牧島会長が頑張ってくれ
ているので 1 万 5000 名程度入って
ほしい。理事の皆さんも是非お越し
いただき激励いただきたい。

報告事項

1. 各委員会報告事項

① 倫理・コンプライアンス委員会

数年前に発生した現在 J.D. リーグ
のタカギ北九州元監督のパワハラ案件
で、調査をすすめていたが「処分審査
に付さない」との回答が J.S.P.O. (公
益財団法人日本スポーツ協会) からあ
ったとの報告がなされた。

② ミズノ製バットのリコール

問題について
各都道府県会長宛に、対応をお願い

したい内容について J.S.A ホームペー
ジに掲載した。詳細は「注記」に記載
しているが、牧島会長からミズノ社に
協会からの要望を伝え、それに対して
ミズノ社からすべて受け入れるとの内
容になる。

2 ページ目は 7 月 1 日付でミズノ社
から回答があった対応状況報告となっ
ている。

それ以降支部協会、大学連他からの
クレームはなく、順調に進んでいるも
のと判断している。

2. その他

① MVP キャップについて

今年度の MVP キャップが完成し、
披露された。

② 小学生の距離変更

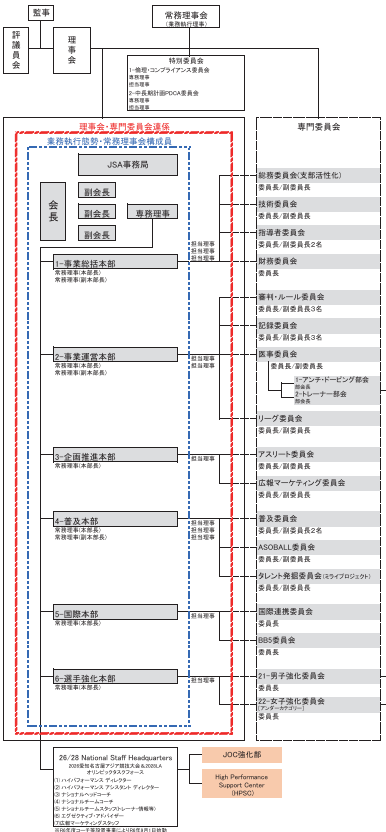
小学生の距離変更は来年度からにな
るが、今年度行う予選会（来年度の代
表を決定する大会）については、各支
部協会に一任することが確認された。

この後、事務局長の兼務問題、7 月
下旬から開催される暑熱対策、試合開
始・実施時間（早朝・ナイター試合の導
入等）について意見交換し、閉会した。

令和 6・7 年度 公益財団法人日本ソフトボール協会 役員一覧

No.	役職	氏名	本部	専門委員会	特別委員会
1	会 長	牧島かれん			
2	副 会 長	宇津木妙子	国際本部	国際連携委員会委員長	
3	副 会 長	伊東 秀仁			
4	副 会 長	宇津木麗華			
5	専務理事	岡本 友章	本務経営		倫理コンプライアンス委員会委員長 中長期計画 PDCA 委員会委員長
6	常務理事	鈴木 俊一	普及本部	普及委員会委員長	
7	常務理事	磯谷 理義	普及本部	ASB 地区委員会委員長	倫理コンプライアンス委員会委員
8	常務理事	西 康弘	事業運営本部	リーグ委員会委員長	
9	常務理事	石井 延明	事業総務本部	財務委員会委員長	
10	常務理事	瀬戸山 章	事業総務本部	総務委員会委員長	
11	常務理事	神谷 和宏	事業総務本部	審判・ルール委員会委員長	
12	常務理事	八田 洋孝	企画推進本部	広報マーケティング委員会委員長	
13	常務理事	松田 和広	選手強化本部		
14	理 事	佐々木幸治	事業運営本部	リーグ委員会副委員長	
15	理 事	亀田 正隆	事業総務本部	技術委員会委員長	
16	理 事	杉本 義彦	事業運営本部	リーグ委員会副委員長	
17	理 事	谷田 圭司	普及本部	総務委員会副委員長	倫理コンプライアンス委員会委員
18	理 事	木田 京子	事業総務本部	総務委員会副委員長	
19	理 事	鈴木 優子	普及本部 事業総務本部	技術委員会副委員長	
20	理 事	岩崎 眞美	事業総務本部 (指導者担当)		
21	理 事	佐藤 理恵	企画推進本部	アスリート委員会委員長	
22	理 事	倉俣 徹	普及本部		
23	理 事	岡田 理恵	選手強化本部		中長期計画 PDCA 調査員
24	理 事	清水 光			倫理コンプライアンス委員会副委員長
25	理 事	山田 博子	国際本部	ベースボール委員会委員長	
1	監 事	上村 知裕	法務担当		
2	監 事	鈴木 利夫	組織担当		
3	監 事	赤城 陽一	財務担当		

外部委員		
No1	外部委員	栗山 利宏 事業総務本部 指導者委員会委員長
No2	外部委員	鎌田 英樹 事業総務本部 指導者委員会副委員長
No3	外部委員	高橋 秀幸 事業総務本部 指導者委員会副委員長
No4	外部委員	遠藤 正人 事業運営本部 記録委員会委員長
No5	外部委員	成田 和穂 事業運営本部 医事委員会委員長
No6	外部委員	森田 裕介 企画推進本部 アスリート委員会副委員長
No7	外部委員	吉田 徹 企画推進本部 広報マーケティング委員会副委員長
No8	外部委員	金谷 裕司 普及本部 普及委員会副委員長
No9	外部委員	坂野英一郎 普及本部 シニア総務委員会委員長
No10	外部委員	宮之原 健 国際本部 ベースボール委員会副委員長
No11	外部委員	江口 真史 選手強化本部 男子強化委員会委員長
No12	外部委員	宗方 貞徳 選手強化本部 女子強化委員会委員長
No13	外部委員	大塚 雄輝 特別委員会 倫理コンプライアンス委員会委員



令和6・7年度（公財）日本ソフトボール協会 本部・専門委員会・特別委員会 委員一覧

事業総括本部						
本部長			瀬戸山 章			
副本部長			石井 延明			
担当理事	亀田 正隆		木田 京子		岩崎 眞美	
委員会						
総務委員会	委員長	瀬戸山 章	副委員長	木田 京子	亀田 正隆	
	委員					
	北海道	吉野 友昭	東北	藤井 保宏	関東	山本 幸雄
	北信越	廣瀬 修	東海	平野 俊幸	近畿	大谷 浩司
	中国	池田 譲二	四国	安堂 廣道	九州	久野 伸一
技術委員会	委員長	亀田 正隆	副委員長	鈴木 優子		
	委員					
	北海道	阿部 匡仁	東北	齋藤 勝寿	関東	樋口 正博
	北信越	関根 邦明	東海	可児 忍	近畿	中島 晋
	中国	西村 信紀	四国	笹岡 裕之	九州	平本 修
指導者委員会	委員長	栗山 利宏	副委員長	鎌田 英樹	高橋 秀幸	
	委員					
	北海道	鎌田 英樹	東北	安藤 智史	関東	天野 充敏
	北信越	荒井 政弘	東海	入野 康孝	近畿	佐子 完十郎
	中国	荒木 貴則	四国	石川 剛	九州	稲福 孝
	委員長推薦	柳田 信也				
財務委員会	委員長	石井 延明	※常務理事			

事業運営本部						
本部長			西 康弘			
副本部長			神谷 和宏			
担当理事	佐々木 幸治		杉本 義彦			
委員会						
審判 ルール委員会 ○は委員長 ○は副委員長を兼ねる	委員長	神谷 和宏	副委員長	足袋拔 豊松	水野 直輝	小牧 司
	委員					
	北海道	佐藤 和哉	東北	遠藤 裕美	関東	松本 雄二
	北信越	○足袋拔 豊松	東海	各務 敏	近畿	○水野 直輝
	中国	○神谷 和宏	四国	真鍋 朗	九州	○小牧 司
	委員長推薦	岡野 秀子	唐橋 仁	中島 健二	片山 砂由里	渡瀬 達生
記録委員会 ○は委員長 ○は副委員長を兼ねる	委員長	遠藤 正人	副委員長	本部 享	村田 文敏	安東 文雄
	委員					
	北海道	川辺 まり子	東北	鈴木 豊	関東	福田 律子
	北信越	田中 都	東海	宮堂 正博	近畿	○遠藤 正人
	中国	本田 道夫	四国	下村 征二	九州	○本部 享
	委員長推薦	八木美代子	佐藤 晴美	田中 明美		
医事委員会	委員長	成田 和穂	副委員長	相澤 徹		
	委員					
	真鍋 知宏	白土 なほ子	服部 幹彦	橋本 典生		
リーグ委員会	委員長	西 康弘	副委員長	佐々木 幸治	杉本 義彦	
	委員					
	長 秀一	吉村 啓	大國 香奈子	杉野 公英	神谷 和宏	遠藤 正人

企画推進本部						
本部長			八田 祥孝			
担当理事	佐藤 理恵					
委員会						
アスリート委員会	委員長	佐藤 理恵	副委員長	森田 裕介		
	委員					
	山脇 佑也	鎌田 優希	清原 奈侑			
広報 マーケティング 委員会	委員長	八田 祥孝	副委員長	吉田 徹		
	委員					
	※調整中					

普及本部						
本部長			磯谷 理義			
副本部長			鈴木 俊一			
担当理事	鈴木 優子		谷田 圭司		倉俣 徹	
委員会						
普及委員会	委員長	磯谷 理義	副委員長	坂野 英一郎	金谷 裕司	
	委員					
ASOBALL	宮田 諒	小野寺 徹	島貫 智博	荒谷 健一	藤原 伊世	
	委員長	磯谷 理義	副委員長	金谷 裕司		
委員会	委員					
	高村 麻代	山本 睦	舟木 千恵	佐野 仁美		
タレント発掘	委員長	坂野 英一郎	副委員長	山口 義男		
	委員					
委員会	馬場 智久	北 義男	椿 太郎			

国際本部						
本部長			宇津木 妙子			
担当理事	山田 博子					
委員会						
国際連携	委員長	宇津木 妙子	副委員長	山田 博子	上野 由岐子	
	委員					
委員会	山田 恵里	廣瀬 芽	二瓶 智子			
ベースボール 5 委員会	委員長	山田 博子	副委員長	宮之原 健	渥美 万奈	
	委員					
	西田 勸汰					

選手強化本部						
本部長			松田 和広			
担当理事	岡田 理恵					
委員会						
男子強化委員会	委員長	江口 真史	副委員長	吉村 啓		
	委員					
	中村 健二	柳田 信也	津本 大貴	橋本 清		
女子強化委員会	委員長	宗方 貞徳	副委員長	相馬 満利		
	委員					
	西山 麗	溝口 弘一郎	佐藤 洋介	古渡 美奈		

特別委員会						
倫理 コンプライアンス 委員会	委員長	岡本 友章	副委員長・担当理事	清水 光		
	委員					
中長期計画 PDCA 委員会	委員長	岡本 友章	副委員長・担当理事	岡田 理恵		
	委員					
委員会	瀬戸山 章	西 康弘	八田 祥孝	磯谷 理義	宇津木 妙子	松田 和広



牧島新会長のもと、新体制での理事会、「本部制」による専門委員会が動き始めた

事務局だより

医事委員会 インターハイで アウトリーチプログラム を実施

JSA（公益財団法人日本ソフトボール協会）医事委員会アンチ・ドーピング部会では、毎年、全国からの強豪チームが参加するインターハイ（全国高等学校総合体育大会／全日本高等学校選手権大会）において、大会参加者（選手、コーチ）と、その関係者に対しアンチ・ドーピング教育の一環としてスポーツ振興くじ助成金を受けて「アウトリーチプログラム」（アウトリーチ活動）を実施している。



医事委員会がインターハイでアンチ・ドーピング教育の一環としてアウトリーチプログラムを実施

「アウトリーチプログラム」（アウトリーチ活動）とは、大会会場等にブースを設置し、参加者に直接情報提供を行うもので、今年は当該大会が長崎県で開催されたため、7月21日～25日の女子の大会実施期間中、長崎県薬剤師会所属のスポーツファーマシストにご協力いただき、大会に参加するチームや大会役員、保護者の皆さまを対象に、日頃から選手が自身の身体に取り込むもの（薬等）について意識することアンチ・ドーピングに関する正しい情報の取得方法を伝えることを目的・趣旨として実施されている。



連日、熱戦が展開されたインターハイ

連日気温が35℃を越える中、多くの方が参加。「クイズ」に答えることで自然とアンチ・ドーピングの知識が身につく企画も立案。今回は長崎県薬剤師会の提案で、薬局で買える身近な商品にもドーピング検査においては「陽性」を示す物質が含まれていることもあるということを知ってもらおうと「のど飴クイズ」を実施。ここでそのクイズを出題するので、皆さんもぜひ挑戦してみてください！

Q この中に安心して使用できるものが2つあります。答えはどれ？



この中に正解は2つ……さてどれが正解???

高校生たちは、キャラクターが書いてあるパッケージを安全なものとして認識

しており、大人たちは、医薬品などとして書いてあるものは避けたほうが良いという意見が多かったとのこと。さて正解はこの2つ！



正解はこちら

意図していなくても、アンチ・ドーピング規則違反になった場合、競技会での成績剥奪やスポーツへの参加の資格が停止されるという個人的な影響だけではなく、社会におけるスポーツの信頼や価値にも大きく影響を与えることになってしまったため、スポーツを通して大切にしたい「スポーツの価値」とは何かを考え、クリーンでフェアなスポーツ環境を作ることが重要である。本事業実施に際し、ご協力をいただきました全国高等学校体育連盟ソフトボール専門部、長崎県ソフトボール協会、長崎県薬剤師会および関係各位に深く感謝申し上げます。